

# きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第17号

令和5年11月  
和歌山県  
長寿社会課

## 支え合い事例紹介

### 有田市「お助け隊ワンコインサービス」

有田市のシルバー人材センターでは、令和5年1月から有償ボランティアサービス「お助け隊ワンコインサービス」を実施されています。

このサービスでは、ワンコイン=500円で30分以内の軽作業を引き受けており、その事務手続きをシルバー人材センターが担っています。

今回、有田市シルバー人材センターの皆様に取り組むについてお話を伺うとともに、実際のボランティア活動にも参加し現場の声も取材させていただきました！



有田市シルバー人材センターの皆様

### 「お助け隊ワンコインサービス」立ち上げの経緯と今後の期待

事務局長の家本さんによると、「お助け隊ワンコインサービス」は利益につながっていないそうです。それでもこの事業を立ち上げた理由としては「社会奉仕です。」とのこと。実際に「お助け隊ワンコインサービス」を立ち上げたのは前任の事務局長だそうですが、その想いを引き継ぎ、「今後はメニューの改善をしていきたい」おっしゃっていました。

このサービスを通してシルバー人材センターの本来業務の依頼へとつながり、高齢者の活躍の場がさらに増えることが期待されます。



家本事務局長

### 第1層協議体会議で取組内容の共有

有田市では、定期的に第1層協議体会議が開催されています。9月に開催された協議体会議では、家本さんに参加していただき、取組内容や想い等について協議体メンバーと共有されていました。



協議体会議の様子

### 「お助け隊ワンコインサービス」への想い

松村理事長に「お助け隊ワンコインサービス」への想いを伺うと、「この事業は利益目的ではないし、ただ作業をして終わりというものでもない。この事業を通して、一人暮らし高齢者等の自宅を訪問し、話相手になってくれることができれば良いと思っている。高齢者は誰かと話をするだけでも安心するので、話をすることが大事。」とおっしゃっていました。



松村理事長

ココがすごい！

### ボランティア登録者の声

「お助け隊ワンコインサービス」のボランティアに登録されている澤崎さん。登録した理由は「体を動かすきっかけになること、それが人の役に立てたら良いと思ったこと」とのことです。取材日にはお一人でテレビ台を粗大ゴミ集積場まで運んでいました。75歳でもまだまだ動けます！と元気に話していただきました。



### 利用者の声

神南さんは「お助け隊ワンコインサービス」を複数回利用されています。神南さんによると「近所の人に頼みたい困りごとと、割り切って業者に頼みたい困りごとがある。お助け隊ワンコインサービスはシルバー人材センターが事務局をしているので、安心して気兼ねなく頼むことができるのが良いんです」とのことです。

### 県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521



## 行政と市社協のSCが一緒に取り組む、 有田市の生活支援体制整備事業

### 令和5年度から再スタート！新体制で新たな取組も。

有田市では、市高齢介護課の松尾さんが第1層SCとして、市社協の林さんが第2層SCとして活躍されています。行政と社協が連携して取組を進められている有田市の生活支援体制整備事業についてお話を伺いました。

有田市では、集いの場を中心としたつながり作りによる支え合いの仕組みづくりを主に進められてきました。

主な取組内容としては、新アウトリーチ事業やサロンの立ち上げ・訪問等を通じ、地域資源の把握・活性化、生活支援ニーズの把握を行うこと。それらを毎月開催している「コーディネーター連絡会」で市、社協、SCが共有し、取組方針等を協議されています。また、林さんはこの他、生活支援コーディネーターだよりの発行、HPでのブログの更新、地域ケア会議への参加など多方面で活躍されています。

今後は、新アウトリーチ事業やサロンを通し、地域の方が主役になり、地域の方と一緒に支え合いの仕組みを作り上げていく方針とのこと。林さんは、「生活支援コーディネーターとして地域の方のやりたいことを応援し、支えられるようになりたい。」と意気込んでいました。

### 有田市の支え合いの仕組みづくり

今回、有田市シルバー人材センター及び生活支援コーディネーターへの取材を通して、市と社協では地域のつながりを主とした深い支え合いの仕組みを目指しつつも、市全体の受け皿として民間の有償ボランティアサービスがすでに立ち上がっているというバランスの良い取組を展開されていると感じました。



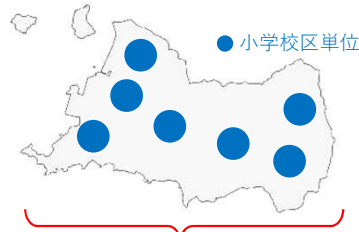
第2層SC  
市社協 林さん



第1層SC  
市高齢介護課 松尾さん

詳しくは右ページ

支え合いの仕組みづくりの基本は  
地域におけるつながり作り



市全体の支え合いの仕組みとして  
有償ボランティアもある

### 「新アウトリーチ事業」

令和5年度から第2層生活支援コーディネーターとなった林さんは「新人生活支援コーディネーターにまちのことを教えてください」と題して新たな事業である「新アウトリーチ事業」を進められています。

この事業では、地域の方に集ってもらい地域資源、困りごとや悩みごとを教えてくださいとともに、地域の方に新人生活支援コーディネーターである林さんの顔を覚えてもらうことを目的としています。

### 宮原地区での取組

宮原地区では毎月第4月曜日にこの事業を実施しています。今回は11月の開催日に取材に伺いました。

今回で4回目の開催ということもあり、参加者のみなさんとSCの松尾さん、林さんはサロンの状況や生活上の悩みなど和気あいあいと話をされていました。壁には、以前この事業で地域の方と一緒に作ったという「地域資源マップ」が貼りだされており、マップを見ながら、バス停やレンタサイクルなど移動に関する状況も話し合われていました。

林さんにやりがいを伺うと、「最近住民の方とつながりができてきて「なんかあったらこの人（林さん）に相談してみよう」という方が増えてきました。また、少し会っていなかったら「元気？」と気遣いをしてもらえるようになってきました。このように住民のみなさんに声を掛けてもらえることが一番嬉しいです！」とのこと、SCに就任して半年とは思えないほど地域の方と良い関係を築かれていました！

### 事業の連携・多世代交流への想い

ココがすごい！

市社協の久保田事務局長に、事業に対する市社協の想いを伺ったところ、「市社協では地域福祉事業すべてを全世代に対する福祉教育の一環としてとらえ、すべての事業を連携させて取り組んでいる。それが多世代交流につながっている。」とのこと。

その想いは、市社協の担当同士が積極的に事業の連携をしているところに現れており、サロンとサマーボランティア事業のコラボなど多くの事業で形となっています。また、令和5年度中に市と市社協連携により地域共創フォーラム（市民フォーラム）、ボランティア・市民活動スタートアップ講座を開催予定です。



サロンの状況を聞き取る林さん



移動の状況を聞き取る松尾さん



サロンとサマーボランティア事業  
コラボの様子